

令和 7 年度 千葉県における「まなまこ東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるマナマコの漁業実態

千葉県においてマナマコは東京湾内湾海域の重要な資源となっており、潜水器漁業や小型機船底引き網漁業などで漁獲されている。本県では“マナマコ” 銘柄として水揚げされる漁協はなく、多くの漁協で“ナマコ” 銘柄として水揚げされている。一方で、“ナマコ” には、外房地区の漁協ではアカナマコ、銚子地区の漁協ではオキナマコが含まれていると考えられるため、マナマコの具体的な漁獲実態は不明である。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近 5 年間（平成 28 年から令和 2 年まで）の平均値（44 トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

該当する資源管理協定

「まなまこ東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は下表のとおりで、1 漁協所属の約 20 名がマナマコを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1 協定となっている。

協定	備考
富津	

本検証の対象協定

自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
潜水器漁業	休漁日の設定	漁協公休日	
	操業時間の制限	漁協が定めた定めた操業時間	

協定に記載されている取組

(3) 資源管理の取組状況

本県主要漁協（目標における「県内主要港」と同義）におけるマナマコを主体とする“ナマコ”の漁獲量は、その多くが東京湾内湾における漁獲量が占めており、2003 年以降増減を繰り返しているが、2021 年以降は減少傾向であり、2024 年は資源管理の目標において維持するとして平成 28 年から令和 2 年の漁獲量の平均値を下回っている（図）。一方、協定参加者による検証（以下、自己点検という。）では、直近 2 年間は休漁していた影響で、効果を検証することができないという結果となった。

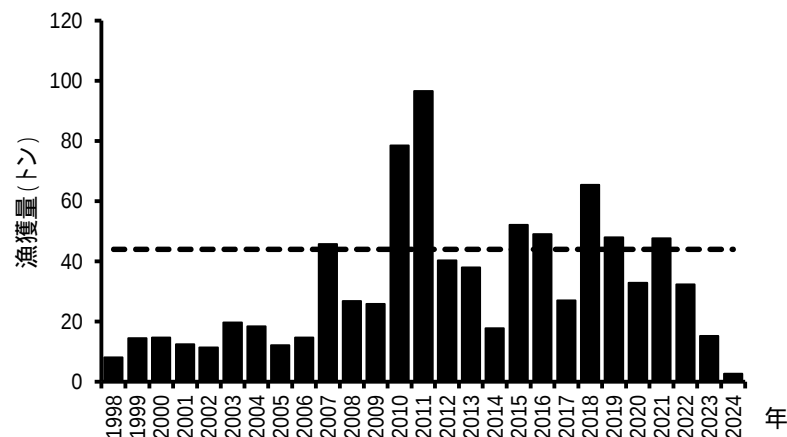


図 本県主要漁協におけるナマコ漁獲量の経年変化（棒グラフ）及び
資源管理の目標とした漁獲量（点線）の比較（千葉県調べ）

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

マナマコについては、協定参加者が直近年に休漁していたため、正確に効果を検証することができなかった。

一方で、協定参加者の主漁場である東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、海洋環境の変動が漁獲量や資源の変動に大きな影響を与えうると考えられる。現在、県では東京湾漁場環境改善に向けた一都二県の漁業者の取組の支援や、魚介類の産卵・生育の場である干潟の維持・保全を図るための覆砂等の取組を実施しており、今後も漁業者による自主的な資源管理と共に推進していく必要があると考えられる。

このため、漁業者が資源の有効利用を図るためには、資源管理協定に記載されている取組を実施していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。